安全衛生 あれこれ 52

増田労働衛生コンサルタント事務所
所長　増田稔久

「交通事故の発生状況」を把握する

～増加に転じた死傷者数！～

今年3月、警察庁は「令和5年の交通事故の発生状況」（全国）を公表しました。事故の現状や対策を知る良い資料ですので、同庁WEBサイトの閲覧をお勧めしますが、先ずは特徴的なポイントを紹介します。

①これまで減少傾向にあった交通事故による死者数、死傷者数がいずれも増加に転じた。（コロナ後で出掛けることが多くなった）

②死者の59・5％が高齢者（65歳以上、以下同じ）である。（総人口に占める高齢者の割合は約30％）

③路上に寝ていて轢かれ死亡した人が107人、後ろ向きに歩いて死亡した人も82人いた。（運転する際には、これを意識することが必要）

④自動車乗車中の死者の約4割がシートベルト非着用。（シートベルト非着用時の致死率は約14・6倍）

⑤自転車乗用中の死者の約半数が「頭部」を損傷。（うち約9割は乗車用ヘルメット非着用・ヘルメット非着用時の致死率は着用時の約1・9倍）

別掲①②のとおり公表された資料には、外国との比較も記され、日本の死者数が32 16人なのに、アメリカが約4万3000人と圧倒的な数値の多さに驚かせられます。また、高齢者が占める割合が日本だけ59・5％と突出しています。

歩行中の死者数の構成率も同様です。我が国の高齢化率は世界で最高だからなのでしょうが、日本の高齢者が元気に外出している証しでもあります。しかし、この実態を踏まえると、高齢者は、外出時のリスク低減措置や危険予知を踏まえた安全行動を心掛けるべきでしょう。例えば、①安全性能の高い車を運転する。②夜や薄暗い時間帯における外出時には反射材や明るい服を着用する。③指差し呼称を交差点や道を横断する際に行う等です。

さて、我が国は10万人当たりの死者数が欧米諸国と比べて少なく、世界ランキングでは上位4位に当たる状況とあります。それならば、これからは国民こぞって1位を目指したらいかがでしょうか？

1位となった暁には、安全ノウハウを世界に発信し、世界中の交通事故を減少に導く貢献ができたら素晴らしいだろうと思うのです。

注：交通事故の死者数は、①事故後24時間以内の死亡が警察では使われています。②国際的な統計では「30日以内死者」が使われ、①の概ね2割増です。③厚労省の「人口動態調査」では更に②の1割増となるようです。

（別掲①）

2022年 交通事故死の国別比較　その1

	日　本	アメリカ	フランス	イタリア	ドイツ	カナダ	イギリス
30日以内死者数（人）	3,216	42,939	3,267	3,159	2,788	1,768	1,766
うち65歳以上死者数（人）	1,913	7,489	882	960	1,023	391	481
構成率（%）	59.5	17.4	27.0	30.4	36.7	22.1	27.2
うち歩行中死者数（人）	877	1,389	220	287	208	95	150
構成率（%）	45.8	18.5	24.9	29.9	20.3	24.3	31.2

（注）・国際道路交通事故データベース（IRTAD）資料（令和6年1月16日時点）による。
・アメリカ、カナダは2021年の交通事故死者数である。

注1：警察庁WEBサイトから引用した。（以下同じ）

（別掲②）

2022年 交通事故死の国別比較　その2

国別人口10万人当たり30日以内死者数比較【2022年】

	日　本	アメリカ	フランス	イタリア	ドイツ	カナダ	イギリス
人口10万人当たり死者数（人）	2.57	12.84	4.98	5.35	3.35	4.97	2.64

（注）・国際道路交通事故データベース（IRTAD）資料（令和6年1月16日時点）による。

〈参考〉国別人口10万人当たり30日以内死者数【2022年】

上位5か国（少ない順）

	ノルウェー	スウェーデン	アイスランド	日　本	デンマーク
人口10万人当たり死者数（人）	2.14	2.17	2.39	2.57	2.62

（注）・国際道路交通事故データベース（IRTAD）に加盟している35か国の順位である（令和6年1月16日時点）。
※ 主な加盟国：上記各国のほか、韓国、オーストラリア、アルゼンチン、ベルギー、チリ等